

## グレビーシマウマのメスの“キララ”について

腹痛による食欲不振で治療中のグレビーシマウマ“キララ”について、当園 SNS で経過を発信していますが、現在の飼育状況や治療経過、今後の治療方針について詳しくお知らせします。また、励ましのお声を頂いておりますことを、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。“キララ”的状態が早く良化するよう、飼育スタッフと獣医チーム一丸となって努力していきます。

### 【飼育状況】

現在 11 歳の“キララ”は 2014 年 10 月より飼育を開始し、しばらくは大きな病気やけがはなく健康に過ごしてきました。しかし 2020 年 5 月に疝痛(腹痛)が見られ、投薬による治療を行いました。2021 年 1 月末には再び疝痛を伴う採食不良がみられ、麻醉下での採血やエコ一検査を行いました。しかし、原因はわからず、その後も食欲不振や便秘などを繰り返したため、4 月には岩手大学に検査を依頼し、内視鏡検査(胃カメラ)と点滴治療を行いました。検査の結果、胃粘膜の腫れや胃液の異常などが見られ、病状の再発を防ぐための投薬治療を継続してきました。

その後しばらく調子は安定していましたが、8 月になり再び疝痛の兆候が見られました。8 月 12 日に再度麻醉下で精密検査を行ったところ、胃潰瘍や胃粘膜出血が見られたほか、血液検査の結果からは腎臓の悪化も懸念されました。8 月 16 日に“キララ”的現状と、飼育状況や今後の治療方針等をチーム内で協議共有し、点滴治療を最優先すべきとの判断から 8 月 21 日に麻醉下で点滴治療を行っています。その際の血液検査の結果では腎臓は正常値に近づいていましたが、いまだに採食量が上がらず、状態は回復しないため、明日以降も麻醉下で集中的な治療を行う予定です。

### 【飼育状況と治療経過】

2021年1月31日:採餌量減少、排便量少ない。注射治療

2月 1日:採餌やや回復、排便変わらず。投薬

2月 2日:採餌量回復傾向だが排便なし。投薬

2月 3日:朝、疝痛症状あり、採餌少量、注射治療 疝痛症状おさまる。尿検査

2月 4日:採餌あり、排便も回数増える。投薬

2月 5日:採餌あり、排便見られるが便小さい。投薬

2月 6日:採餌不良、排便少なく、腹部にやや張り見られる。投薬

2月 7日:採餌なし、排便ごく少量、注射治療

2月 8日:麻醉下にて点滴、胃ガス・胃液排出のためカテーテル等挿入、注射治療

2月 9日:採餌やや増えるも少量、座っていることが多い、注射治療

2月10日:採餌量増える、排便あり、動作良好、投薬

2月11日:採餌・排便良化、投薬  
2月12日:採餌・排便良化、飲水増える。投薬  
2月13日:採餌回復、排便も良化傾向。投薬  
2月14日:採餌・排便ともほぼ通常に戻る。投薬  
2月15日:採餌・排便回復。投薬継続  
2月16日:状態良好、投薬  
2月23日:尿検査、状態良好、投薬  
2月27日:状態良好、投薬  
2月28日:尿検査、状態良好、投薬  
3月 1日:軟便あり、投薬  
3月 2日:軟便あり、尿検査、投薬  
3月 3日:便状回復、投薬  
3月 4日:便状正常、投薬  
3月10日:投薬終了

4月 4日:軟便あり、尿・便検査、採餌量低下、注射・内服薬投薬による治療  
4月 5日:採餌量少ない、注射治療  
4月 6日:採餌量少ない、注射治療・投薬  
4月 7日:採餌量やや良化、注射治療・投薬  
4月 8日:採餌量が通常の半分強程度  
4月 9日:麻酔下にて検査治療、胃粘膜浮腫、胃液貯留あり  
4月10日:採餌量が通常の半分以下、投薬  
4月11日:採餌量・排便やや回復、投薬  
4月12日:状態変わらず、投薬  
4月19日:通常に戻る、投薬  
5月26日:採餌量やや減少、投薬  
5月28日:乾草の荒い部分は残すが排便正常、投薬

8月 1日:排便量が少ない、採餌量減少、常同行動あり、尿検査、注射・内服薬投与  
8月 2日:採餌量さらに減少、注射治療  
8月 3日:採餌量・排便少ない、注射治療・投薬  
8月 4日:採餌なし、注射治療  
8月 5日 //  
8月 6日:採餌ごく少量、注射治療  
8月 7日:ペレットのみ採餌、注射治療・投薬  
8月 8日:状態変わらず、注射治療・投薬

8月 9日:ペレット・乾草を程度しか食べず。注射治療、  
“キララ”の現状と、飼育状況、今後の治療方針等をチーム内で共有  
8月10日:ペレットのみ完食、便状悪い。注射治療  
8月11日:採餌なく、便状悪い。注射治療  
8月12日:麻酔下にて精密検査及び治療。→胃潰瘍・胃粘膜出血あり、胃液貯留なし。  
血液検査により腎機能低下を疑う。  
8月13日:採餌・排便なし、胃潰瘍の治療開始、鼻汁が出るようになる  
8月15日:採餌量が通常の3割程度、便状悪い、鼻汁あり、投薬  
8月16日:採餌量が通常の1割以下、排便なし、排尿あり、鼻汁あり、飲水量減少  
皮膚の傷の治りが悪い。投薬  
“キララ”の現状と、治療内容方針等をチーム内で共有話し合い  
8月17日:採餌量が通常の3割程度に回復、皮膚より排膿あり、鼻汁多い、投薬  
8月18日:採餌量が通常の 2 割程度、排便なし、鼻汁多い、投薬  
8月19日:鎮静をかけ点滴予定量だったが麻酔が効かず中斷  
8月21日:麻酔下にて点滴、採血等実施、点滴が継続できるよう留置針をつける。  
8月22日:留置針より点滴を試みるが、不通のため留置針除去する。下痢、投薬  
8月23日:採餌・排便なし